

2019年2月8日

嬉野市政治倫理審査会・吉田一穂会長 様

市職員B氏 2月5日付陳述書における疑問点等

「嬉野をよくする市民の会」代表
宮崎 誠一

市職員B氏が2019年2月5日付で提出した陳述書に以下、疑問点等を挙げる。

陳述書「茶師プロジェクトグループラインには、2018年6月27日(金)に招待され、参加しました。東京での会食時にも茶師プロジェクトの話がなかったので、当時、茶師プロジェクトの内容については知りませんでした」

→6月に茶師アニメ発案者の会食参加者氏、アニメ制作会社「会社名」社長の会食参加者氏らの嬉野ツアーをアテンドした際、市職員Aと交わされた会話を聞いているはずであり、そもそも「茶師プロジェクト」というLINEグループが何を意味しているのか、全く分からずに参加したという説明は苦しい。

会食後、会食参加者(アニメ制作会社社長)氏は「市職員Aさん 市職員Bさん 東京でまた握手ができてよかったです!! 何かしらのカタチにしてよい前例が作れればと!! 激烈よろしく お願いします!!」とメッセージを送っている。

6月の訪問の際の続きの話をして、何らかの形にして前例を作ろうと呼び掛けている。大枠で言えば、茶師プロジェクトに参加する事業者が、嬉野市と連携して何らかの事業を行おうという意思表示であり、同社が他自治体名とタイアップして温泉を擬人化した「ご当地アニメ」の制作実績があることを踏まえれば、茶師プロジェクトが何を目指そうとしているのか、少なくとも嬉野市とタイアップして何らかの企画を立ち上げようとしていたことは間違いない。